

令和2年度第1回ウミガラス保護増殖検討会 議事概要

◆日時：令和3年1月28日（木）14：00～16：30

◆場所：オンライン

◆出席者：配布資料参照

※○委員 ●環境省

◆議事概要

議事に先立ち座長の選出が行われ、前年まで座長を努めた小城委員より綿貫委員の推薦があり、全会一致で綿貫委員が座長に選出された。

議事（1）. ウミガラス保護増殖事業ロードマップ(骨子案)について

1. ロードマップの位置づけ 及び 2. 現状と課題

<主な意見>

特になし

3. 目標

（1）中期目標（2022～2031 年度：10 年間）→【資料3】参照

目標数の設定について

これまでの飛来数および繁殖つがい数から、Voltex、近似曲線、指数関数グラフにより、10年後の値を推定した。つがい数を用いた指数関数グラフの推定値は10年後に126つがいであるが、これを達成するためには、中央巣棚のみならず、左もしくは右側巣棚でも現在と同程度の繁殖成功率を維持しなくてはならない。

<主な意見>

○つがい数が一番適した指標である。

○無理のない目標を立てるということで、ひとまず④つがい数を用いた指数関数グラフから推定した126つがいという値を採用すればよいのでは。きりの良い100つがいとすることも考えられる。

○126つがいを目標にすると、中央巣棚だけでなく左右の巣棚での繁殖が成功しなくてはいけない。環境収容力を考えると複雑になるが、例えば、目標の中に「コロニーの規模が拡大する」というインデックスを入れるべきである。分散をある程度考えなくてはいけない。

●中央巣棚からあふれてそれ以外で繁殖した場合、繁殖成功率が下がる可能性が十分にあり、現在の繁殖成功率を使用して算出した126つがいという値を採用することに懸念があるので、目標数値は幅を持たせるのはいかがか。

○最低つがい数を100にする根拠がない。75つがいで中央巣棚がいっぱいになるという推測があるので、75-125とすればよいのでは。

○75だと低すぎるのではないか。最低でも3桁（100つがい）を目指して積極的

に保護に取り組むべき

- 飛来数についても目標設定すべきか。
- 目標値としては、つがい数だけでよいのではないか。
- つがい数が大切なのはもちろんだが、一般の人が気にかけるのは飛来数なので、飛来数の目標も設定すべき。
- 観察努力量にもよると思うが、単純につがい数の2倍とすればよいわけではない。
- これまでの観察数から求めた175羽でよいのでは。

<本検討会の結論>

- 将来に対して不明確さがあり幅を持った数値で設定することで良いが、最低つがい数を、根拠のある75にするか、3桁の100つがいにするかは、環境省でデータを整理し、後日検討する。
- 繁殖つがい数からの推定値は、指数関数の回帰で算出しているため、飛来数についても同様に、これまでの飛来数データを用いて指数関数増加を仮定し、10年後に何羽になるか推計し直してみる。

4.取組内容

(1) 生息状況等の把握

1) 飛来・繁殖状況の把握

中央巣棚の飛来数及び繁殖状況のモニタリング（カメラ設置：4～8月）

赤岩周辺の海上の飛来数のモニタリング（赤岩展望台からの写真撮影：3月）

<主な意見>

- つがい数や巣立ち雛数を調べないと繁殖状況を把握できないため、モニタリングは必須である。
- カメラ調査で分かってきたことは多いので、台数を増やすなど検討しながら、継続した方がよい。
- 中央巣棚からあふれた場合を考慮し、左側巣棚のモニタリングも検討しては。

天売島周辺海域の渡り調査（航路センサス：10月～翌年3月に月1回程度）

<主な意見>

- 周辺海域の航路センサスは、ある程度データの蓄積があるので、それほど必須ではない。一旦今までのデータをまとめて、今後も調査の必要があるか検討してはどうか。

過去の繁殖地等の広域の目視調査、地域住民からの目撃情報収集を実施する【6～10年目】

<主な意見>

- これまでも実施しているので、とくに6年目以降とせず、随時実施することになればよい。常に情報収集をしておき、変化があれば観察・調査を増やすなどの対応を行うといった文章にする。

2) 生態・動態の把握

傷病個体のうち野生復帰が可能な個体については、足環又はデータロガーの装着及び採血を行い、放鳥する【1～10年目】。

雛及び成鳥の捕獲方法を検討する【1～5年目】。

<主な意見>

- 捕獲の是非を精査・検討して、実施するとしたらどういう方法で行うかを検討すればよいのではないか。
- 海上での捕獲は難しいので、海や船の専門家を含めた検討、海外の文献を調べるなどが必要だと思う。
- 1～2年目で検討してその後適宜判断するといった、書き方を検討してはどうか。

(2) 生息環境の維持・改善

1) 生息環境の整備

過去の繁殖地を中心に、中央巣棚に環境が類似し、環境整備のために近づきやすい場所を探し、次に誘引する場所を想定する【1～10年目】。

<主な意見>

- 10年以内には必要ないと思う。10年以内に赤岩の巣棚（左側・中央・右側）が満杯になることはないだろう。

2) 誘引対策

今後の繁殖地拡大を見据えて、より費用対効果の高い誘引手法（デコイの色・形・向きなど）について検討する（飼育施設等）【6～10年間】。

<主な意見>

- 主に左側巣棚に拡大するためだと思うので、もう少し早めに実施してもよいと思う。
- デコイだけではなく音声も重要である。誘引効果のある鳴き声を天売島で録音すべき。またデコイの配置についても、外からも見えやすくするなど、視覚的な効果と聴覚的な効果の両方をうまく組み合わせて実施する必要がある。
- 繁殖地付近に、沖のウミガラスに見せるためのデコイを設置することを検討しても良いかもしれない。
- 現在流している鳴き声は、どちらかというと威嚇などの排他的な声だと思うの

で、ペアでの鳴きかわしの声など、誘引効果のある鳴き声に変更する方が良いのでは。

○現在流している鳴き声は、天売島で録音したものであり、ある程度の効果があると思われるが、より効果のある声を録音し直すことも可能。

3) 捕食者対策

ハシブトガラスの巣棚内への侵入が確認されている。最後まで残ったひなが捕食されるという例が確認されているが、育雛中の卵や雛の捕食は確認されていない。対策を開始してからウミガラスの繁殖成績が上がったのは確かである。

① ハシブトガラス、② オオセグロカモメ

<主な意見>

○ハシブトガラスに関しては、エアライフルによる捕獲と巣落としの実施を継続していただきたい。オオセグロカモメは、個体数が減っているので慎重に実施する必要がある。

○捕獲した個体の処理について、記録を取る、標本を残すなど情報取得を検討すべきである。特にオオセグロカモメは個体数が減っているため、捕獲個体を回収できるのであれば研究に役立てるべきである。

③ ドブネズミ

<主な意見>

○ドブネズミの侵入経路が分かっている、下から登ってくるのであれば、そのルートにネズミ除けを設置するなどの検討が必要である。

○ドブネズミに対しては殺鼠剤が有効なのは。

●漁業を営む島でもあることから、殺鼠剤の使用は難しい。

議事 (2). その他

1. 天売ネコ対策の取り組みについて

今年はドブネズミの出現が多く、島民生活への被害が心配される。今後、ドブネズミが増加した際の対策を検討する必要がある。

2. 羽幌シーバードフレンドリー認証制度について

<主な意見>

特になし

* ロードマップの議論できなかった部分及び「天売島におけるドブネズミ対策」については次回検討